

令和 2 年 7 月 2 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04469

研究課題名(和文) アクティブ・ラーニングを生かしたカリキュラムと評価方法の開発

研究課題名(英文) Development of Curriculum and Assessment in Active Learning

研究代表者

田中 耕治 (Tanaka, Koji)

佛教大学・教育学部・教授

研究者番号：10135494

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：まず、何よりもアクティブ・ラーニングの発祥国である米国における研究・実践動向を詳細に分析し、さらには資質・能力ベースのアクティブ・ラーニング論の課題についても考究した。昨年度に引き続いて、熊本大学附属中学校や京都市立堀川高等学校を訪問し授業観察を行うとともに、評価規準・評価方法に関する資料を収集した。さらには、15年間に及ぶ共同研究実践校である京都市立高倉小学校との成果を、『資質・能力を育てるカリキュラム・マネジメント』2017/12として公刊した。そこでは、パフォーマンス評価を基軸とした授業研究とカリキュラム開発の具体例を提示し、分析を加えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「主体的・対話的で深い学び」としてのアクティブラーニング論が教育現場において実現するためには、それを具体的に駆動させるカリキュラムの開発とさらには教育評価のあり方を明示しなくてはならない。本研究では、アクティブラーニング論の本質的理解を図るべく、その発祥地である米国の研究動向を分析するとともに、日本の先進校にフィールドワークを試みることによって、確かな理論的実践的提言を行うことができた。その成果は、研究メンバーに多産的に出版された書籍で公開されている。

研究成果の概要(英文)：We have investigated the trend of Active Learning originated by USA. And We have analysed the advanced practices implemented by Junior High school attached to Kumamoto University. Moreover We published "Competency based Curriculum Management" cooperated with Takakura elementary school in Kyoto.

研究分野：教育方法学

キーワード：アクティブラーニング カリキュラム開発 教育評価 パフォーマンス評価 評価基準

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

教育の改善を図るうえで、その担い手である教師の力量を向上することは必要である。アクティブ・ラーニングが提唱されて以降、その用語の一般性のために、様々な解釈がなされ、とりわけアクティブに反応して、活動主義的な実践が横行するという状況であった。さらには、アクティブ・ラーニングの課題も羅列的で網羅的であるという問題状況であった。

#### 2. 研究の目的

そのような状況を改善するために、まずはその発祥国である USA の理論的・実践的背景を考察することが必要と考えた。さらには、日本における先進実践事例(たとえば、熊本大学付属中学校や京都市立堀川高校や高倉小学校など)を参加観察・共同研究を行い、その教育的価値を普遍化することが必要と考えた。

#### 3. 研究の方法

USA おける文献収集とりわけ教育評価を活かした理論的・実践的な書籍の収集に努めた。さらには、先進実践事例を参加観察して評価規準・評価方法に関する資料を収集した。

#### 4. 研究成果

(1)研究過程の中で、USA のカリキュラム論の総体を把握することが必要と自覚して、Kridel,C(ed)の Encyclopedia of Curriculum Studies を全訳(総ページ千ページ)し、最終報告書として発刊した。

また、報告書は近々公刊予定となっている。

(2)日本における先進実践事例に関する考察を行った成果の要点をまとめると、およそ以下のようなようになるであろう。

アクティブ・ラーニングがめざす『資質・能力』とは、汎用性とともに各教科の『見方・考え方』をその重要な構成要素としなければならない。

その資質・能力を児童・生徒が育成したかどうかを評価するためには、『真正の評価(authentic assessment)』に基づく、とりわけ『パフォーマンス評価』を実施しなくてはならない。

『パフォーマンス評価』の信頼性を確保するためには、児童生徒の認識の転換点を示すルーブリック(評価指標)を作成しなくてはならない。

『カリキュラム妥当性』のなかに『パフォーマンス評価』を位置づけるためには、評価計画を示す必要がある。そこには、ウィギンズ(Wiggins,G)が考案した『逆向き設計(backward design)』が有効であり、『見方・考え方』に通じる『本質的な問い』と「永続的な理解」の設定が必要であり、これこそが教育現場で求められている学校を基礎にしたカリキュラム編成であると考え、先進校との共同研究によって検証を重ねた。ちなみに、「逆向き設計」とは、以下のような要素と順序によってカリキュラムを設計することである。

<逆向きの設計のプロセス>

「求めている結果を明確にする」(教育目標の明確化)

「承認できる証拠を決定する」(評価方法の選択・開発)

「学習経験と指導を計画する」(授業の計画)

この場合、「逆向き」と称されるのは、従来 of 慣行とは異なって、その設計プロセスがまずは「求めている結果を明確にする」と「承認できる証拠を決定する」を決めた上で、「学習経験と指導を計画する」という、達成すべき成果とそれをはかる評価方法からカリキュラ

ムを構想するからである。この「逆向き設計」論も日本の教育実践に貴重な示唆を与え、精力的に実践されるようになっている(西岡加名恵・奥村好美『『逆向き設計』実践ガイドブック』日本標準、2020年)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田中耕治	4. 巻 1208
2. 論文標題 資質・能力を支える見方・考え方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校教育	6. 最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka Koji	4. 巻 25
2. 論文標題 Restropective and Prospective on the Educational Assessment in Post-warJapan',	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cristina Alarcorn&/Martin Lawn', Assessment Cultures,	6. 最初と最後の頁 313-332
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 第84巻第3号
2. 論文標題 日米におけるアクティブ・ラーニング論の成立と展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育学研究	6. 最初と最後の頁 311-319
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 No.483
2. 論文標題 アクティブ・ラーニングとパフォーマンス評価	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学習研究（奈良女子大学附属小学校学習研究会）	6. 最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 第543号
2. 論文標題 「主体的・対話的で深い学び」の評価をどうする？	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 月刊教職研修	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 7月号
2. 論文標題 教育課程編成の工夫 教科内容の精選と構造化の工夫	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 93-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 30号
2. 論文標題 教科横断的な視点からの資質・能力の育成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 31号
2. 論文標題 資質・能力の3つの柱と評価のあり方	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 第146集
2. 論文標題 資質・能力ベースのカリキュラム改革をめぐる理論的諸問題 教育的価値を追求するカリキュラムと授業の構想に向けて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国立教育政策研究所紀要	6. 最初と最後の頁 109-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 32号
2. 論文標題 カリキュラム・マネジメントで何が求められているのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中耕治	4. 巻 No.1208
2. 論文標題 『資質・能力』を支える『見方・考え方』の指導を	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校教育	6. 最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中耕治	4. 巻 第30号
2. 論文標題 人間発達研究の創出と展開 - 田中昌人・田中杉恵の仕事をとらして歴史をつなぐ -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人間発達研究所紀要	6. 最初と最後の頁 104-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka Koji ,Cristina, A ;Martin Lawn(ed),	4. 巻 -
2. 論文標題 Restropective and Prospective on the Educational Assessment in Post-war Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Assessment Cultures	6. 最初と最後の頁 313-332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中耕治	4. 巻 45
2. 論文標題 「教育評価論からみたアクティブ・ラーニング」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 教育方法45	6. 最初と最後の頁 pp.113-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 No.173
2. 論文標題 今、求められるアクティブ・ラーニング	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 特別支援教育の実践情報	6. 最初と最後の頁 pp.4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 65
2. 論文標題 アクティブ・ラーニング導入にあたっての評価の在り方	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 pp.20-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 25
2. 論文標題 資質・能力ベースのカリキュラムの危険性と可能性	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 カリキュラム研究	6. 最初と最後の頁 pp. 83-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 「主体的・対話的で深い学び」の実現とパフォーマンス評価
3. 学会等名 第14回日本協同教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 パフォーマンス評価の考え方と進め方
3. 学会等名 獲得型教育研究会第112回例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 新学習指導要領と国語教育の課題
3. 学会等名 全国大学国語教育学会第132回大会
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 カリキュラムと評価の改革の世界的標準化をめぐる 教育学としての「比較」研究による対抗軸の模索
3. 学会等名 日本教育学会第76回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 エビデンスに基づく教育を飼い慣らす視座 教育目標と評価の新しい形の構想へ
3. 学会等名 日本教育行政学会第52回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 コンピテンシー・ベースのカリキュラムをどう捉えるか - 知の総合化と統合的な学びの追求へ -
3. 学会等名 日本教育方法学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 カリキュラム論からの環境教育への期待 コンピテンシー・ベースの教育課程と 教科教育の課題
3. 学会等名 日本環境教育学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 366
3. 書名 新しい時代の教育課程 第4版	

1. 著者名 西岡加名恵、石井英真	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 124
3. 書名 教科の深い学びを実現するパフォーマンス評価	

1. 著者名 石井英真	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 136
3. 書名 主体的・対話的で深い学びを拓く	

1. 著者名 田中耕治・石井英真・八田幸恵・本所恵・西岡加名恵	4. 発行年 2017年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 212
3. 書名 教育をよみとく 教育学的探究のすすめ	

1. 著者名 田中耕治・岸田蘭子監修（西岡加名恵・石井英真）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 124（10-13）
3. 書名 資質・能力を育てる カリキュラム・マネジメント 読解力を基盤とする教科の学習とパフォーマンス評価の実践	

1. 著者名 石井英真	4. 発行年 2017年
2. 出版社 図書文化	5. 総ページ数 (35-48)
3. 書名 学習指導要領の改訂に関する教育方法学的検討	

1. 著者名 石井英真	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 136(19-24)
3. 書名 主体的・対話的で深い学びを拓く	

1. 著者名 田中耕治	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 102
3. 書名 教育評価研究の回顧と展望	

1. 著者名 田中耕治	4. 発行年 2017年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 (176-183)
3. 書名 教職教養講座第6巻 道德教育	

1. 著者名 田中耕治	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 230(2-3, 40-41, 104-105)
3. 書名 よくわかる教育課程 第2版	

1. 著者名 高見茂・田中耕治・矢野智司 共編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 (111-126)
3. 書名 教職教養講座第1巻 教職教育論	

1. 著者名 細尾萌子・田中耕治 共編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 (61-79)
3. 書名 新しい教職教育講座 教職教育編 6 教育課程・教育評価	

1. 著者名 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 (1-18, 141-170, 236-260, 283-292, 294-300)
3. 書名 新しい時代の教育課程 第4版	

1. 著者名 田中耕治	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 280
3. 書名 戦後日本教育方法論史 上	

1. 著者名 田中耕治	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 264
3. 書名 戦後日本教育方法論史 下	

1. 著者名 Koji Tanaka, Kanae Nishioka and Terumasa Ishii	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 153
3. 書名 Curriculum, Instruction and Assessment in Japan Beyond lesson study	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西岡 加名恵  (Nishioka Kanae)  (20322266)	京都大学・教育学研究科・教授    (14301)	
研究分担者	石井 英真  (Ishii Terumasa)  (10452327)	京都大学・教育学研究科・准教授    (14301)	